

# 地域医療連携の更なる推進について

(新たな地域医療構想について)

東京都保健医療局医療政策部

## 4 新たな地域医療構想に向けた国の動向

令和6年3月29日  
第1回新たな地域医療構想等に関する検討会資料

### 新たな地域医療構想の主な検討事項（案）

- 新たな地域医療構想については、2040年頃を見据え、医療・介護の複合ニーズを抱える85歳以上人口の増大等に対応できるよう、**病院のみならず、かかりつけ医機能や在宅医療、医療・介護連携等を含め、地域の医療提供体制全体の地域医療構想として検討予定。**

※ 現状、課題、検討事項等についても、今後の検討会等で検討

#### 【現状】

- 各構想区域の2025年の病床の必要量について、**病床機能ごとに推計し、都道府県が地域医療構想を策定。**
- 各医療機関から都道府県に、**現在の病床機能と2025年の方向性等を報告。**
- 将来の病床の必要量を踏まえ、地域の関係者が**地域医療構想調整会議（二次医療圏が多数）**で協議。
- 都道府県は**地域医療介護総合確保基金**等を活用して支援。

など

#### 【主な課題】

- 2025年の**病床の必要量**に病床の合計・機能別とも近付いているが、**構想区域ごと・機能ごとに乖離。**
- 将来の病床の必要量を踏まえ、各構想区域で病床の機能分化・連携が議論されているが、**外来や在宅医療等を含めた、医療提供体制全体の議論が不十分。**
- 医療・介護の複合ニーズを抱える85歳以上が増大する中、**在宅を中心に入退院を繰り返し最後は看取りを要する高齢者を支える医療を提供する必要。その際、かかりつけ医機能の確保、在宅医療の強化、介護との連携強化等が必要。**
- 2040年までみると、都市部と過疎地等で、**地域ごとに人口変動の状況が異なる。**
- **生産年齢人口の減少等**がある中、**医師の働き方改革**を進めながら、地域で必要な医療提供体制を確保する必要。

など

#### 【主な検討事項（案）】

- **2040年頃を見据えた医療提供体制のモデル**
  - ・ 地域の類型（都市部、過疎地等）ごとの医療需要の変化に対応する医療提供体制のモデル（医療DX、遠隔医療等の取組の反映）等
- **病床の機能分化・連携の更なる推進**
  - ・ 病床の将来推計：機能区分、推計方法、推計年等
  - ・ 病床必要量と基準病床数の関係
  - ・ 病床機能報告：機能区分、報告基準等
  - ・ 構想区域・調整会議：区域、構成員、進め方等
  - ・ 地域医療介護総合確保基金
  - ・ 都道府県の権限 等
- **地域における入院・外来・在宅等を含めた医療提供体制の議論**
  - ・ 入院・救急・外来・在宅・介護連携・人材確保等を含めた医療機関の役割分担・連携のあり方
  - ・ 将来推計：外来、在宅、看取り、医療従事者等
  - ・ 医療機関からの機能報告：機能区分、報告基準等
  - ・ 構想区域・調整会議：外来・在宅・介護連携等の議論を行う区域、構成員、進め方等
  - ・ 地域医療介護総合確保基金
  - ・ 都道府県の権限
  - ・ 介護保険事業等を担う市町村の役割 等

など 163

## ④ 新たな地域医療構想に向けた国の動向

### 地域医療構想に関する今後の想定スケジュール

令和6年3月29日  
第1回新たな地域医療構想等に関する検討会資料

#### 現行の地域医療構想

3/13 地域医療構想及び医師確保計画に関するWG  
議題：地域医療構想の更なる推進について  
→ 年度内に2025年に向けた取組の通知を発出

夏頃 推進区域・モデル推進区域（仮称）の設定

アウトリーチ  
の伴走支援

地域医療構想の取組  
状況について、随時、  
調査を実施した上で、  
WGにおいて、進捗  
状況の評価等を行う。

報告

WGの議論  
の内容を新  
検討会に報  
告し、現行  
の地域医療  
構想の評価・課題を  
踏まえ、新  
たな地域医  
療構想の検  
討を進める。

#### 新たな地域医療構想

3月下旬 第1回新たな地域医療構想等に関する検討会（仮称）

- ※ 検討会を月1～2回程度開催
- ※ 医療部会に報告しながら検討を進める

1巡目の議論

- ・ 関係団体等からのヒアリング
- ・ 論点の提示、議論

R6.5.22 東京都

夏～秋頃 中間まとめ（予定）

2巡目の議論

- ・ 制度改正の具体的な内容に関する議論

年末 最終まとめ（予定）

国の検討会の資料及び議事録は、  
下記厚生労働省HPで公開

[https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei\\_436723\\_00010.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei_436723_00010.html)



令和7年度（2025年度）

- ・ 新たな地域医療構想に関するガイドラインの検討・発出

令和8年度（2026年度）

- ・ 新たな地域医療構想の検討・策定

令和9年度（2027年度）

- ・ 新たな地域医療構想の取組（第8次医療計画の中間見直し後の取組）

## ⑤ 新たな地域医療構想等に関する検討会における都提出資料（抜粋）

### 新たな地域医療構想の策定に向けて①

令和6年5月22日  
第3回新たな地域医療構想等に関する検討会都提示資料

#### 令和4年度以降の調整会議における意見

##### 患者動向等に関する主な意見

- ・ 介護度が高い方や認知症の方が、コロナ後は特に増えており、地域に帰しにくくなっている。
- ・ 救急の受入で多いのは高齢者の方で、独居の方の入院が非常に多い。
- ・ 誤嚥性肺炎や心不全等の慢性疾患の患者が入退院を繰り返しており、入院期間が長くなるという問題と、出口が少ないところも課題
- ・ 高齢者、特に介護度の高い方が、いわゆるサブアキュートで入るとなかなか出口がない。医療連携のほか、介護保険や福祉などとの連携が必要であり、区市町村との連携が不可欠
- ・ 高齢者の診療については、病院だけでなく、老健、介護医療院等介護の施設も含めて対応を考える必要
- ・ 患者像が変わってきて、高度急性期、急性期の看護師が高齢者対応を身につけていないと、対応が難しくなっている。
- ・ 高齢者救急の受入れがなかなかできないことの根本には、高齢者医療には限界があるという点があるが、ご本人やご家族がそれを理解していないという症例あり

##### 医療・介護提供に関する主な意見

- ・ 看護師が不足しており、病床を開けられず、病床稼働率も以前と比較して上がっていない。
- ・ 高齢の入院患者が増え、救急患者さんも急増している中で、看護師不足の問題もあるが看護助手の確保についても非常に困っている。
- ・ ケアマネジャーの高齢化が進む一方、募集をかけてもなかなか集まらず人員が不足している。
- ・ 都内の訪問看護ステーション数は増えているが、訪問介護のヘルパーの確保が難しく、夜間ヘルパーが担うべき業務を訪問看護ステーションの看護師が担っている状況

- 認知症の方や基礎疾患等を抱える高齢患者がより一層増加し、また独居の方も増加等の想定の下、ニーズに対応できる医療・介護全体での体制構築の議論が必要ではないか。
- 既存サービスを提供するための看護師等やケアマネ等の人材確保も厳しい状況であり、将来に向けて医療・介護の人材確保の状況を踏まえた議論が必要ではないか。

## ⑤ 新たな地域医療構想等に関する検討会における都提出資料（抜粋）

### 新たな地域医療構想の策定に向けて②

令和6年5月22日  
第3回新たな地域医療構想等に関する検討会都提示資料

#### 策定手続等に関する課題

○現行の地域医療構想は、2013（平成25）年当時の実績値を基に、2025年の医療需要や病床数の必要量等について国の示す計算式で推計するなど、全国一律の考え方で策定されており、以降国の考え方の見直しもなされていない。

新たな地域医療構想では、策定後も様々な状況変化を踏まえ適宜考え方の見直しやデータの更新を図るとともに、都道府県の実情に応じた柔軟な対応を認めるべきではないか。

○現行の地域医療構想は、病床数の推計値を基本に策定されているが、新たな地域医療構想は医療・介護全体で体制構築を検討すべきであり、病床を中心とする視点だけではない指標が必要。

次期構想では、構想策定後、地域の現状を的確に捉え自律的に今後の対応を判断できるよう、複数の適切な指標を示すべきではないか。

○新たな地域医療構想では、「病院のみならず、かかりつけ医機能や在宅医療、医療・介護連携等を含め」た検討が必要とされる一方、策定のガイドライン提示は令和7年度とされる。

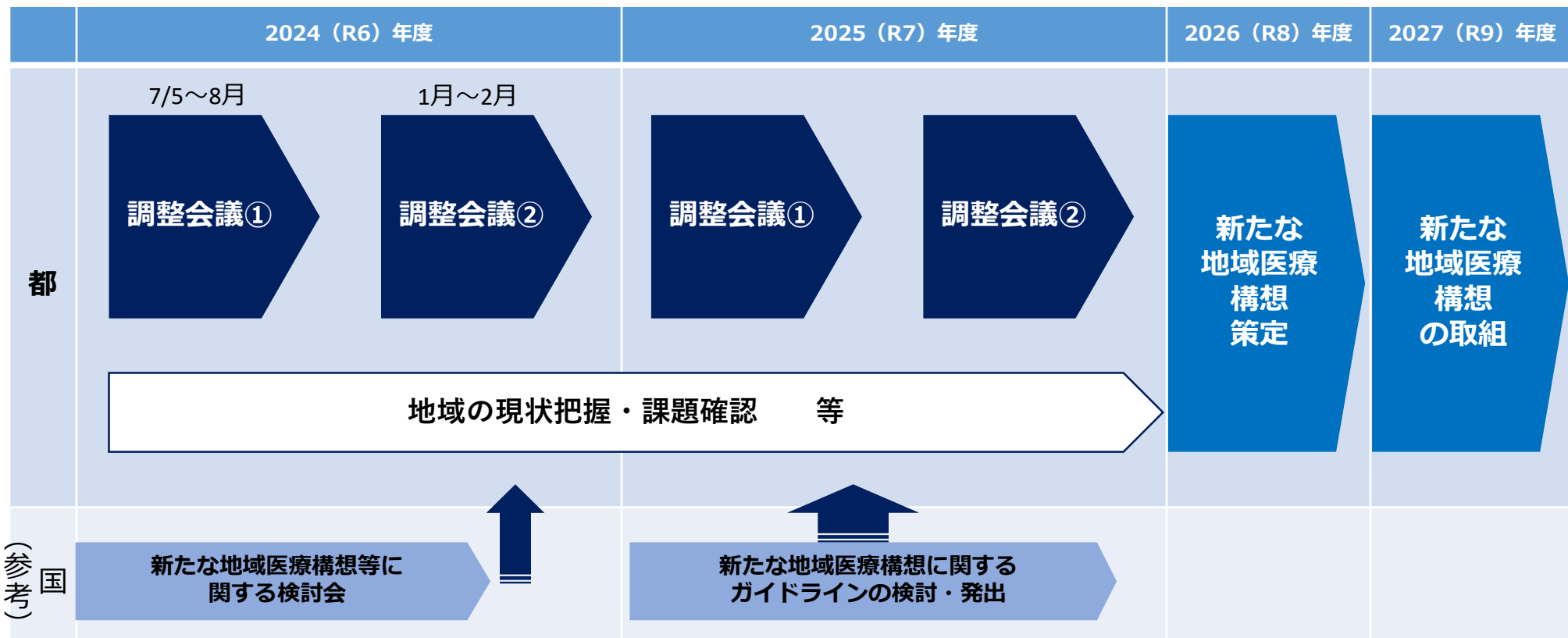
関係者と十分な議論を行うには時間が必要であり、策定のためのガイドライン等は可能な限り早期に示すべきではないか。

## ⑥ 今後の調整会議の方向性について

### 《今後の方向性》

推進区域の設定をきっかけに、調整会議で地域の医療提供体制の**現状把握**や**課題の確認等**を行い、国の検討会の議論も踏まえながら、**新たな地域医療構想策定に向けた準備**を推進

### 《スケジュール案》



## 7 意見交換「地域医療連携の推進について」

これまでの調整会議での意見交換や、事前アンケート結果等を参考に、

- ✓ 複数疾患を有する高齢患者、社会的課題を有する患者などの受入れ等に当たり、医療・介護の人材不足が懸念される中で、どう効率的に関係者間で連携するか
- ✓ 現状の医療連携の際の連絡方法・手段について課題があるか

について、圏域内で意見交換を実施

【意見交換のための参考資料】

### ① 令和5年度第2回 調整会議意見交換 結果

前回調整会議で議論した「圏域で不足している医療、機能分化や連携の促進が必要な医療は何か」についての自圏域及び周囲の圏域も含めた主な意見まとめ

⇒ 参考資料3

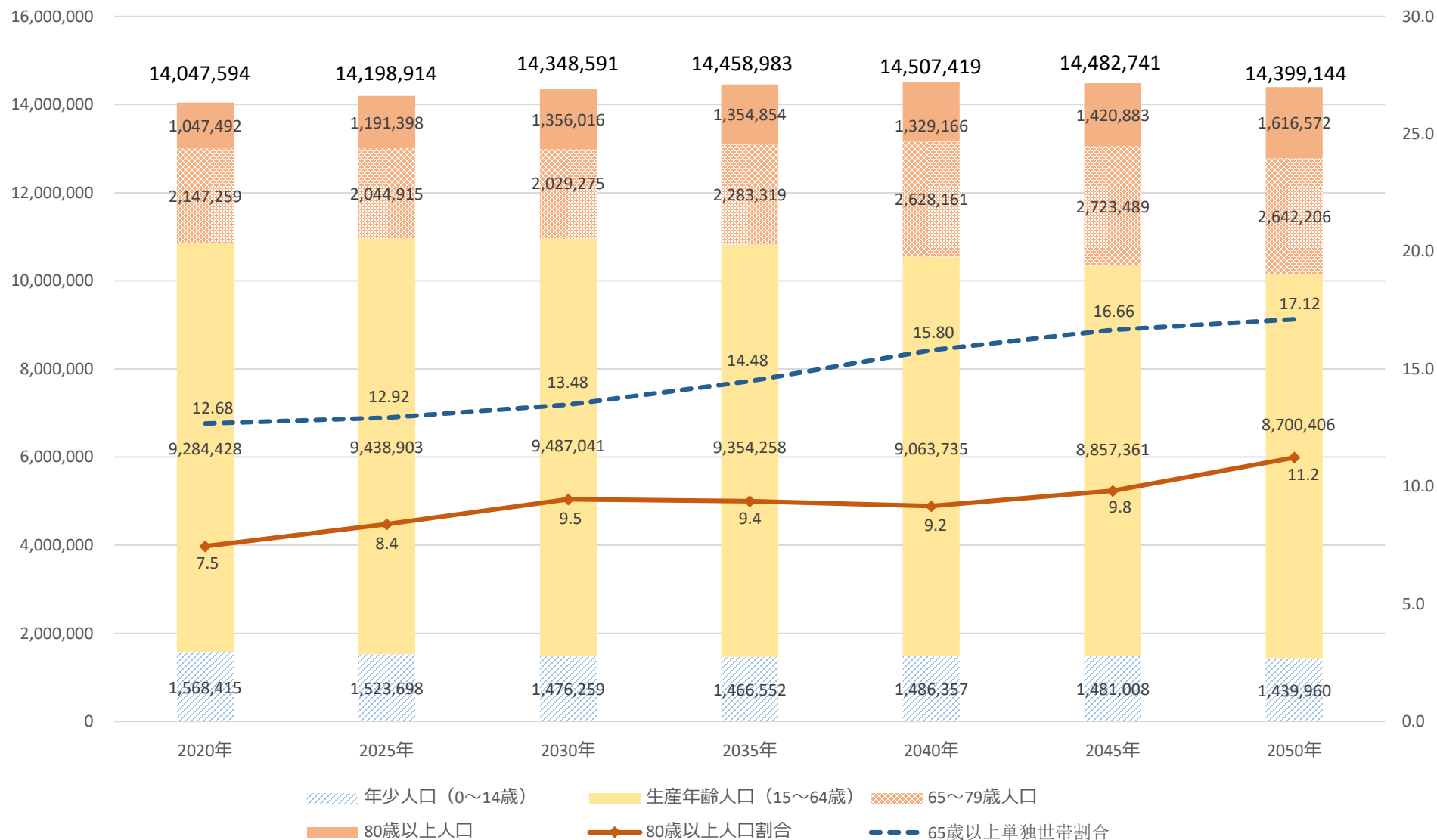
### ② 都内全病院への 事前アンケート結果

「地域医療連携システム導入のメリットや運用上の課題、医療DXを活用した地域医療連携の理想的な姿」等について、事前にアンケートを実施

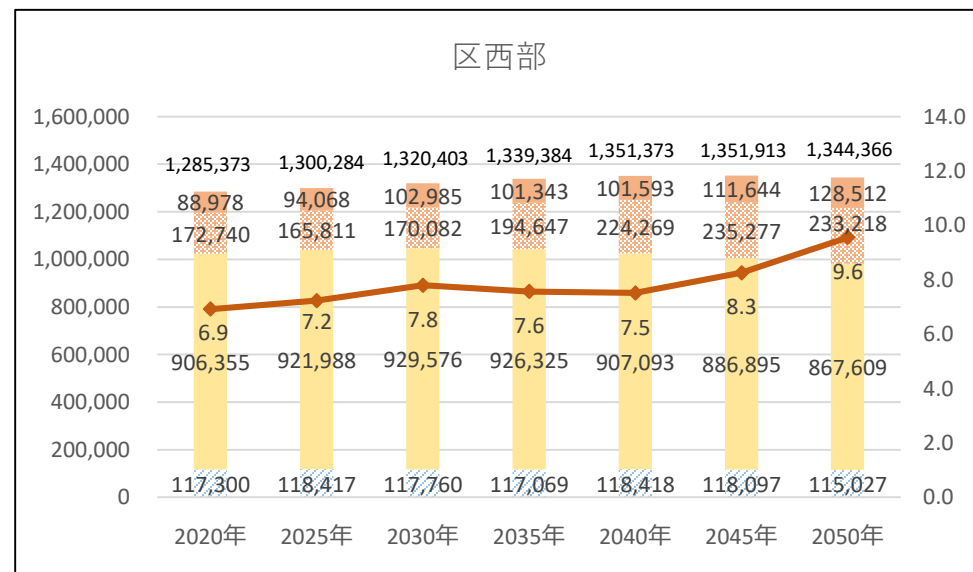
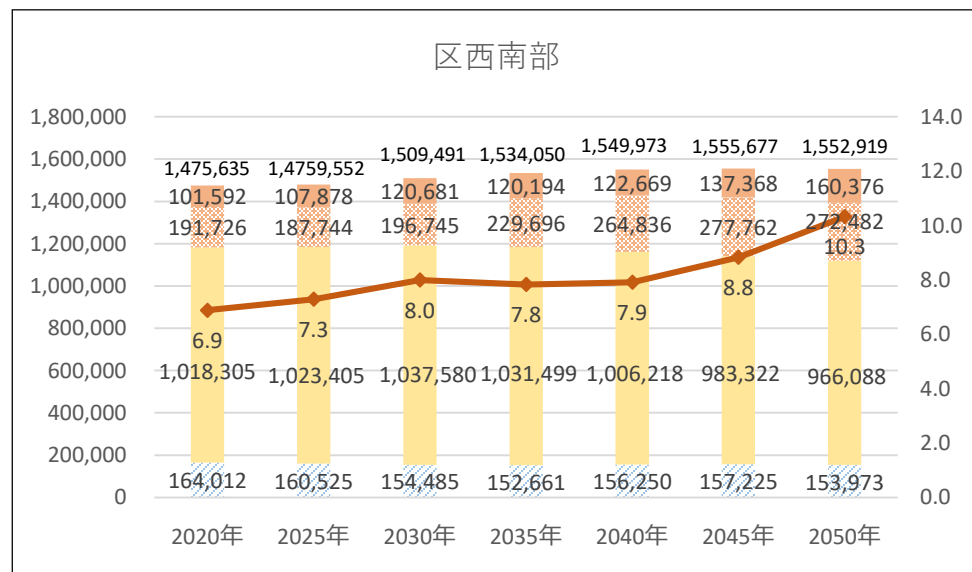
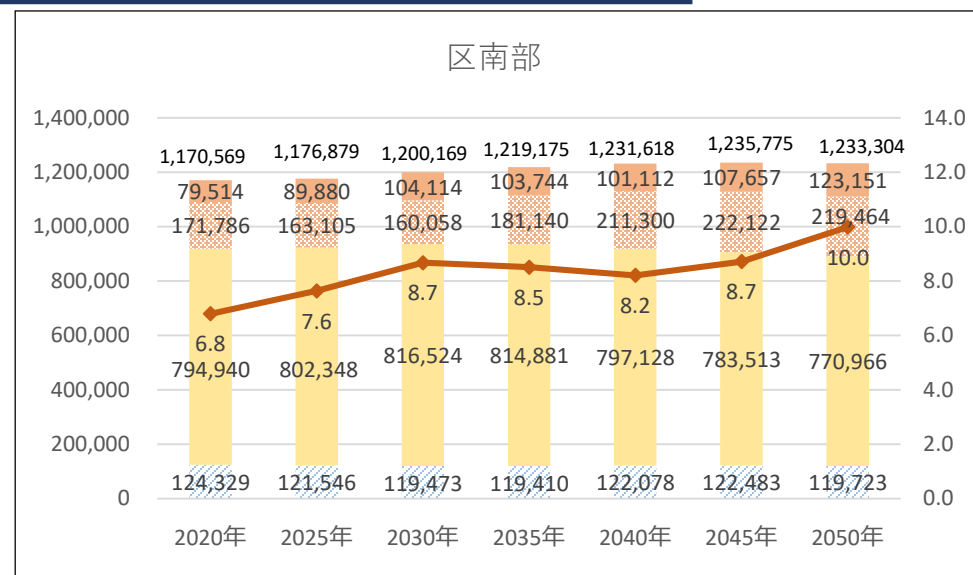
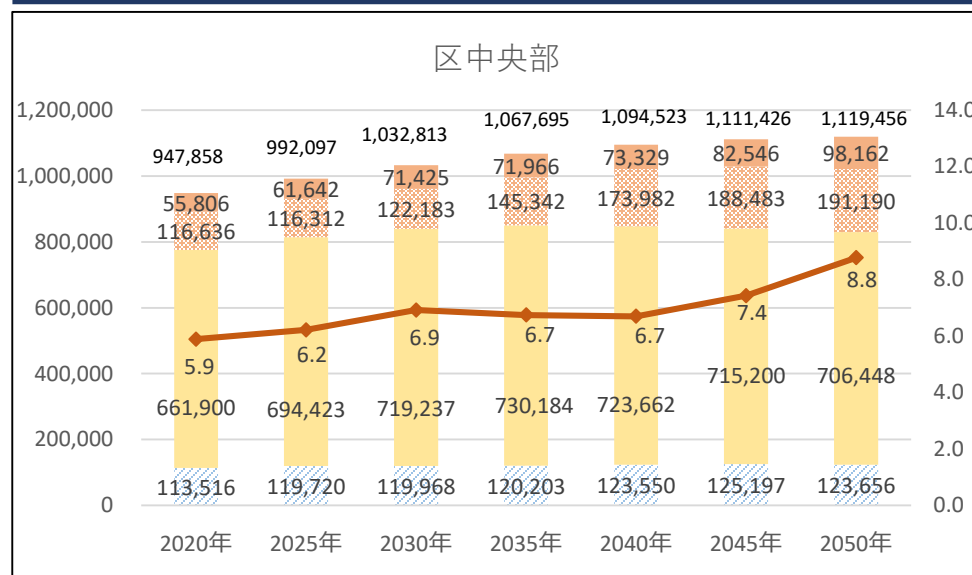
⇒ 資料4-2：事前アンケートの回答一覧

参考資料4：事前アンケート内容

## ⑧ 【参考】 2050年までの将来推計人口と高齢単独世帯割合（都全域）

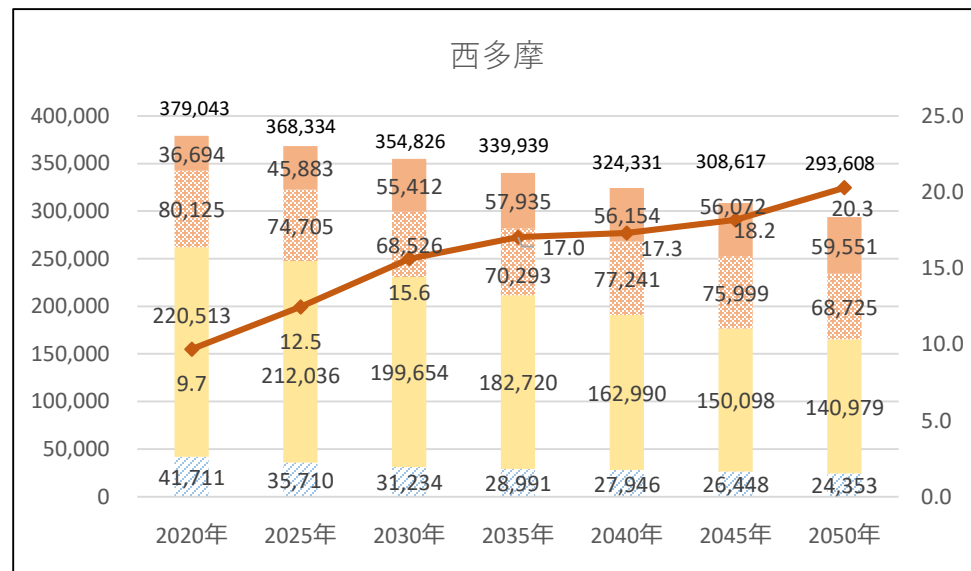
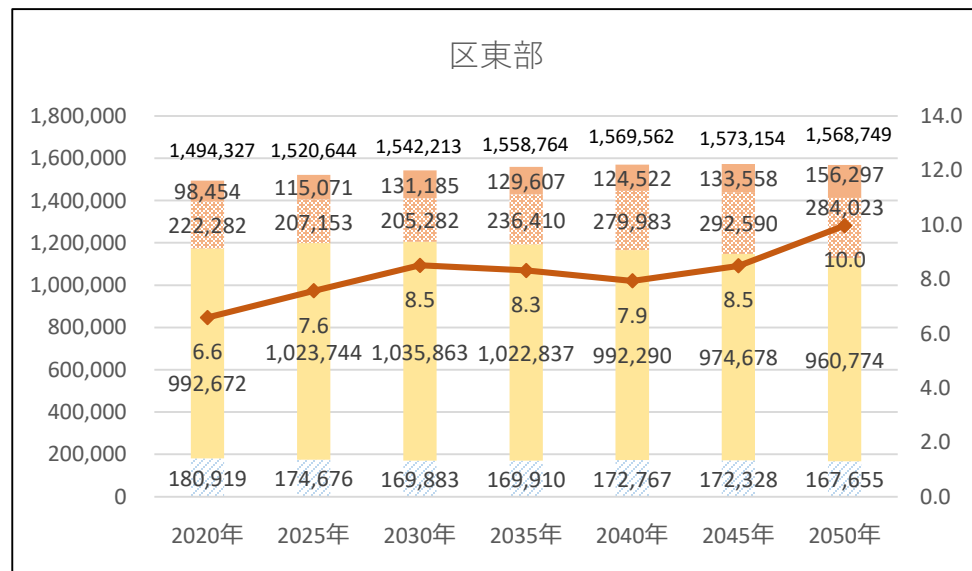
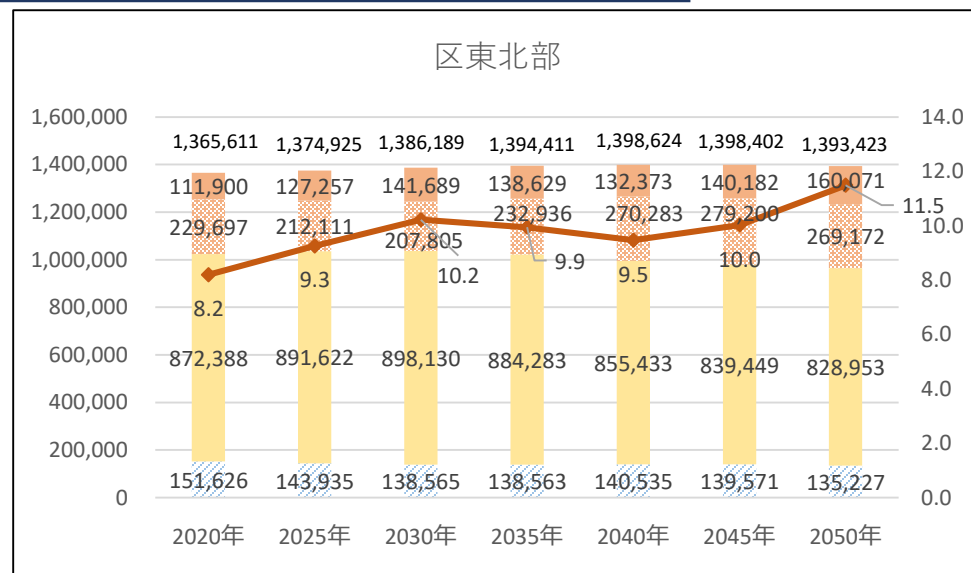
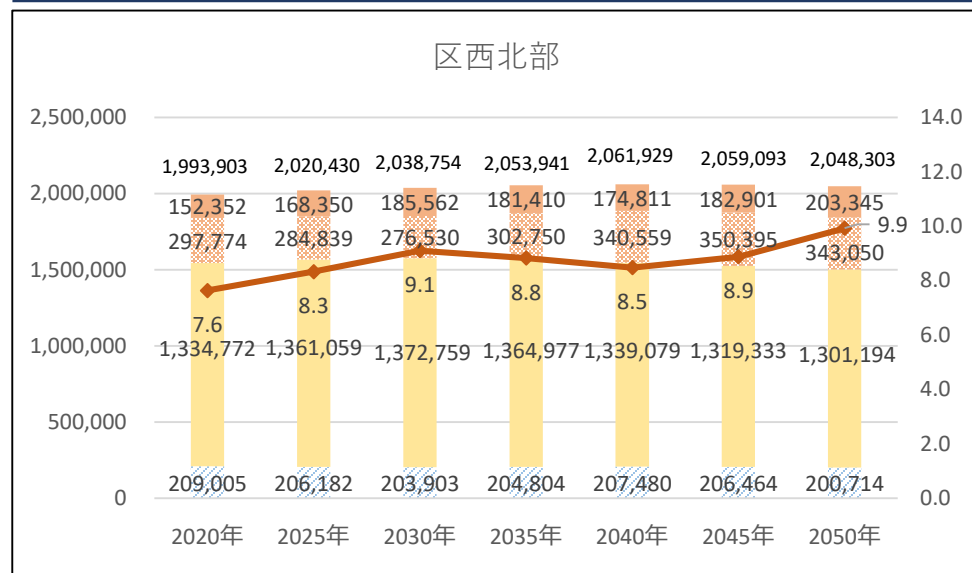


## ⑧ 【参考】 2050年までの将来推計人口（全圏域分）



//// 年少人口 (0~14歳)
 ■ 生産年齢人口 (15~64歳)
 ■ 65~79歳人口
 ■ 80歳以上人口
 —◆— 80歳以上人口割合

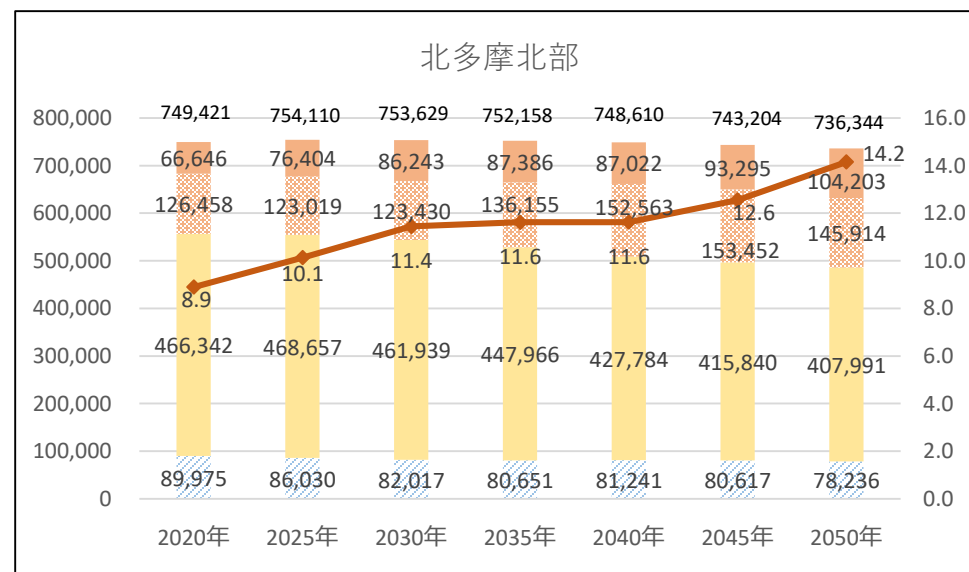
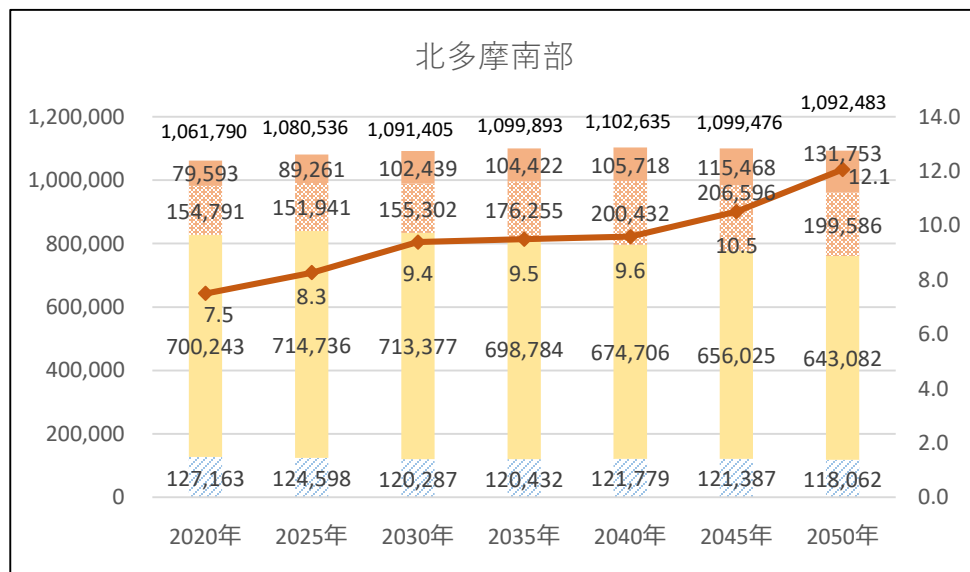
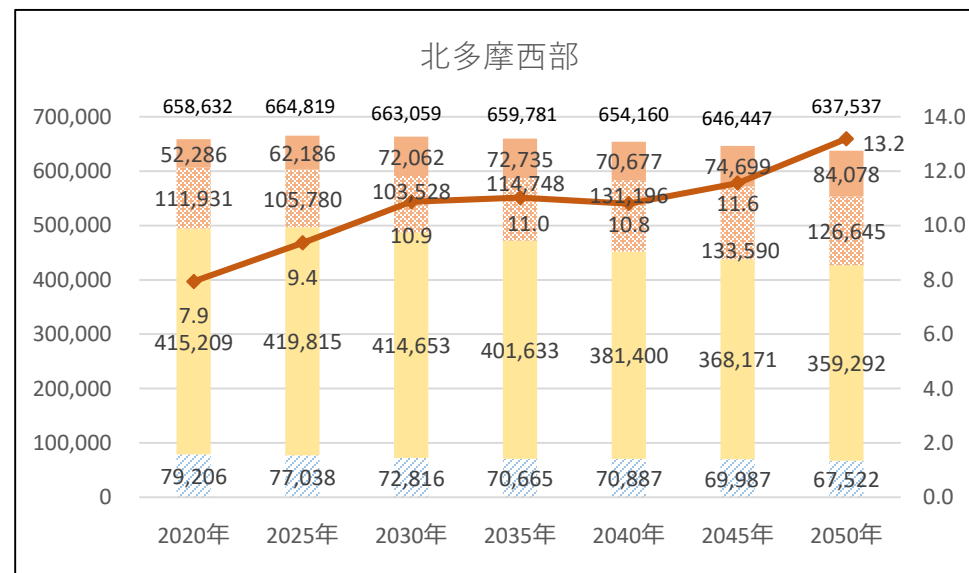
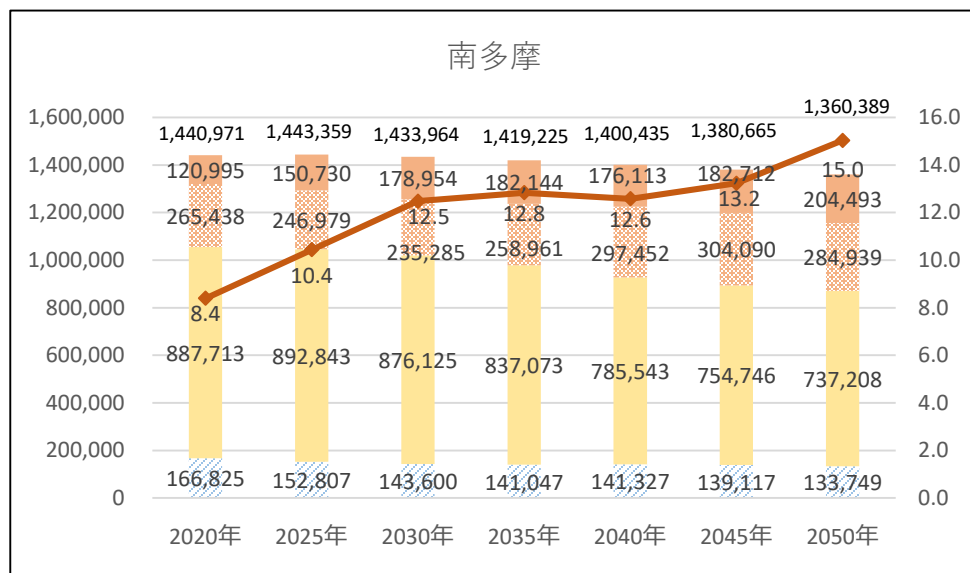
# ⑧ 【参考】 2050年までの将来推計人口（全圏域分）



▨ 年少人口 (0~14歳)
 ▨ 生産年齢人口 (15~64歳)
 ▨ 65~79歳人口
 ▨ 80歳以上人口
 —◆— 80歳以上人口割合

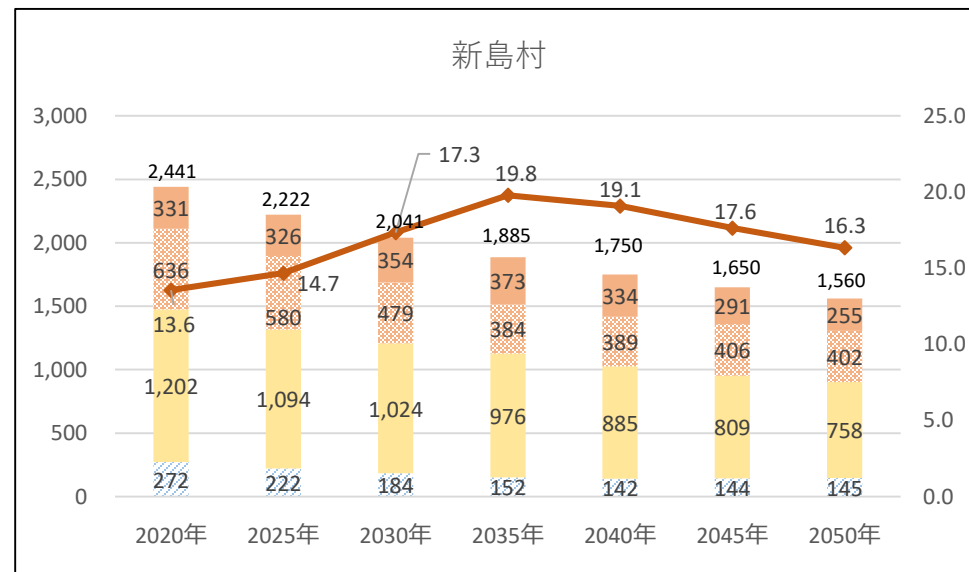
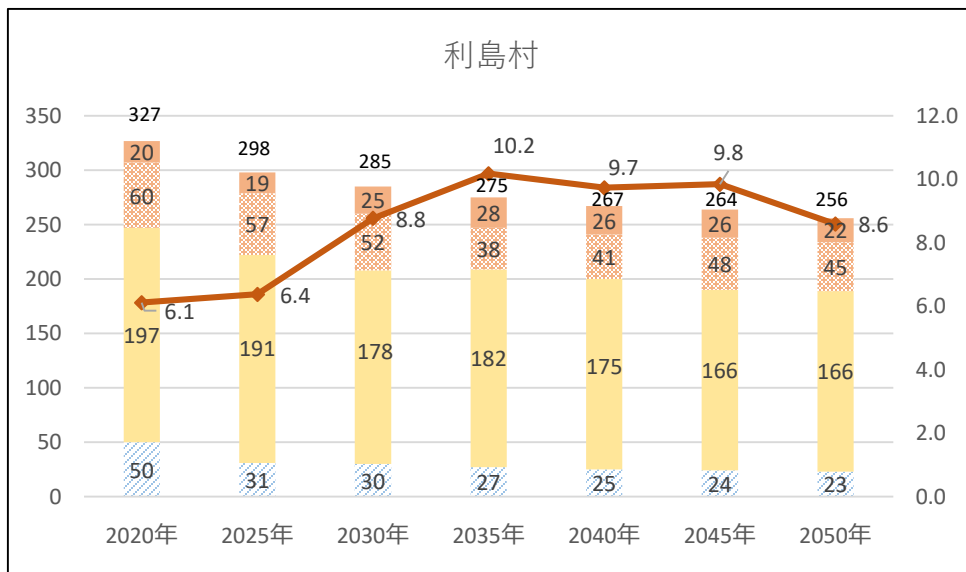
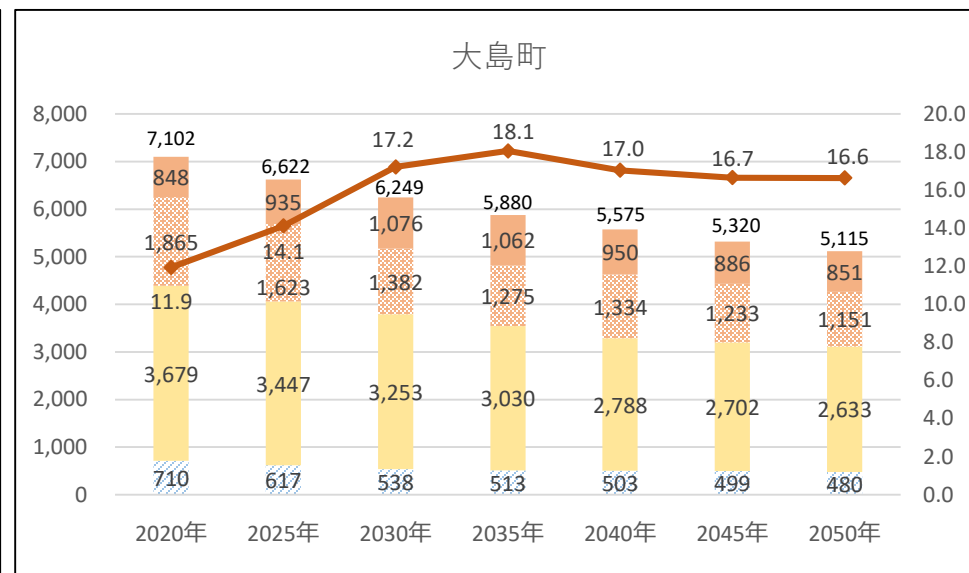
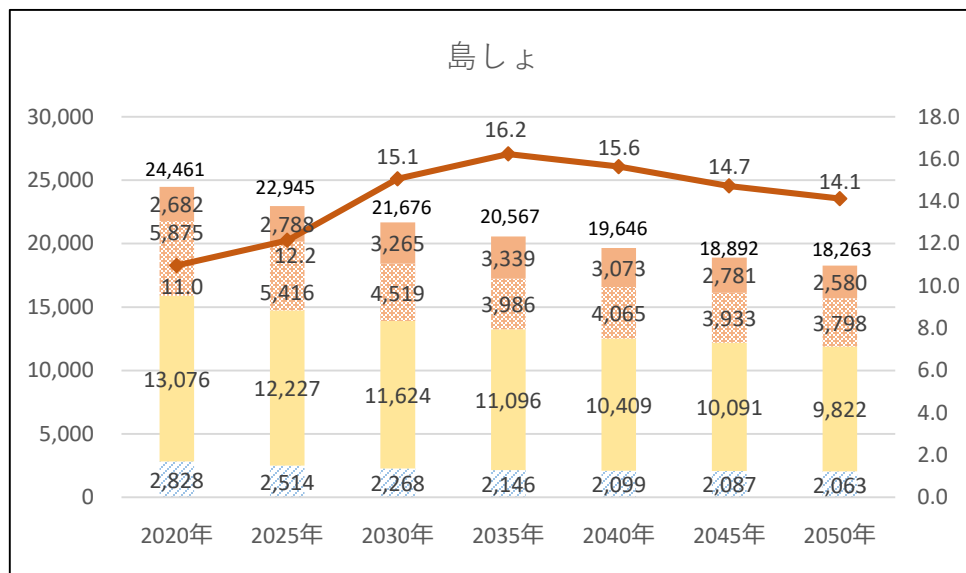
8

## 【参考】2050年までの将来推計人口（全圏域分）



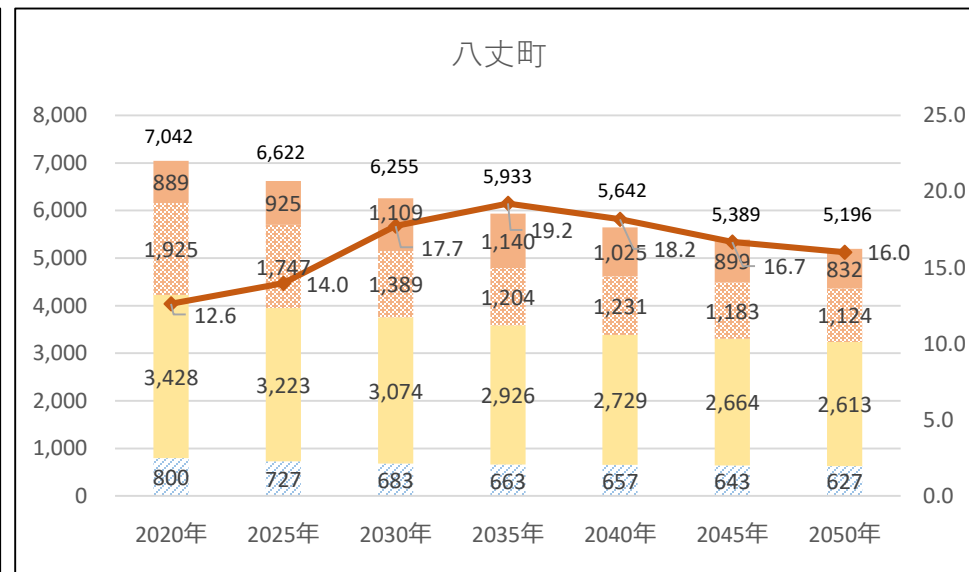
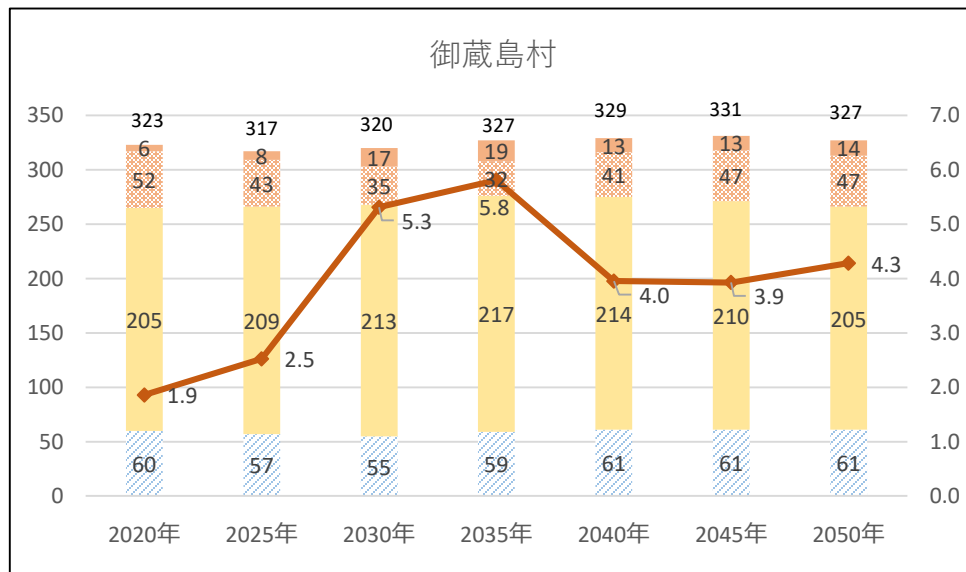
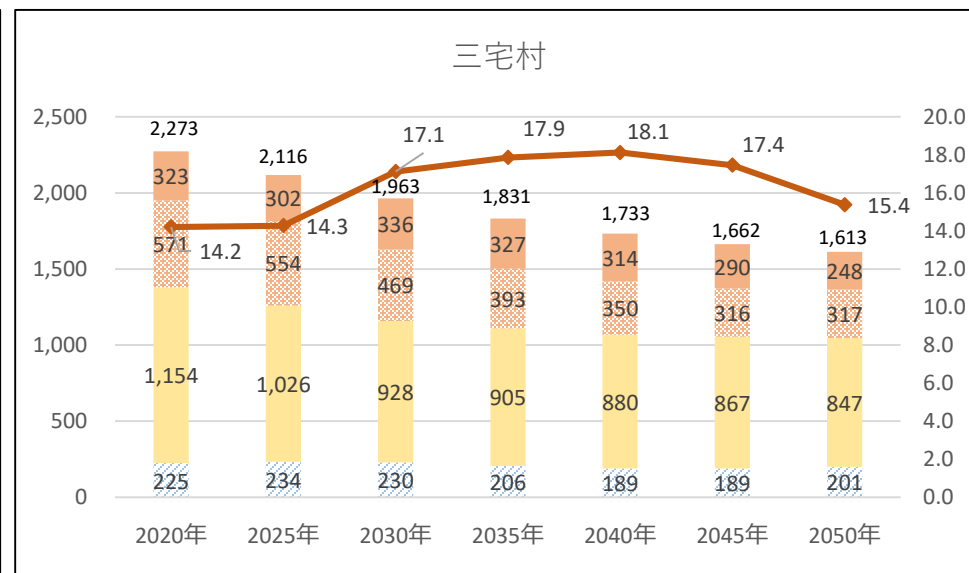
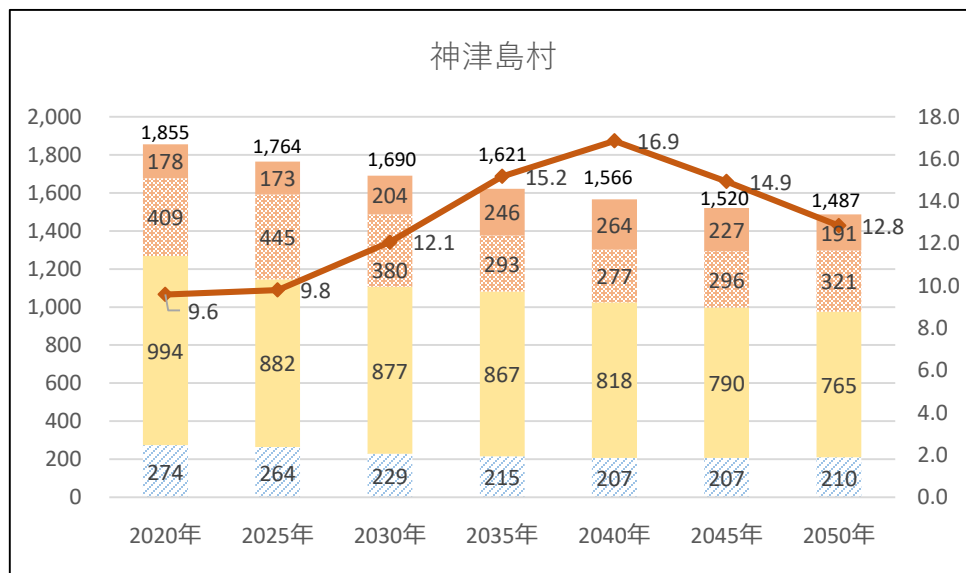
年少人口（0～14歳）
 生産年齢人口（15～64歳）
 65～79歳人口
 80歳以上人口
 80歳以上人口割合

## ⑧ 【参考】 2050年までの将来推計人口（全圏域分）



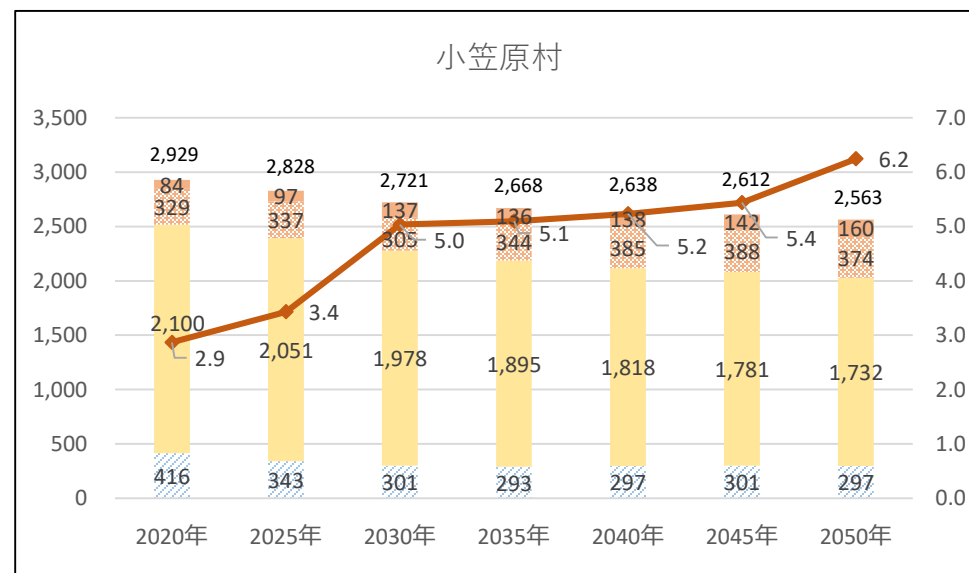
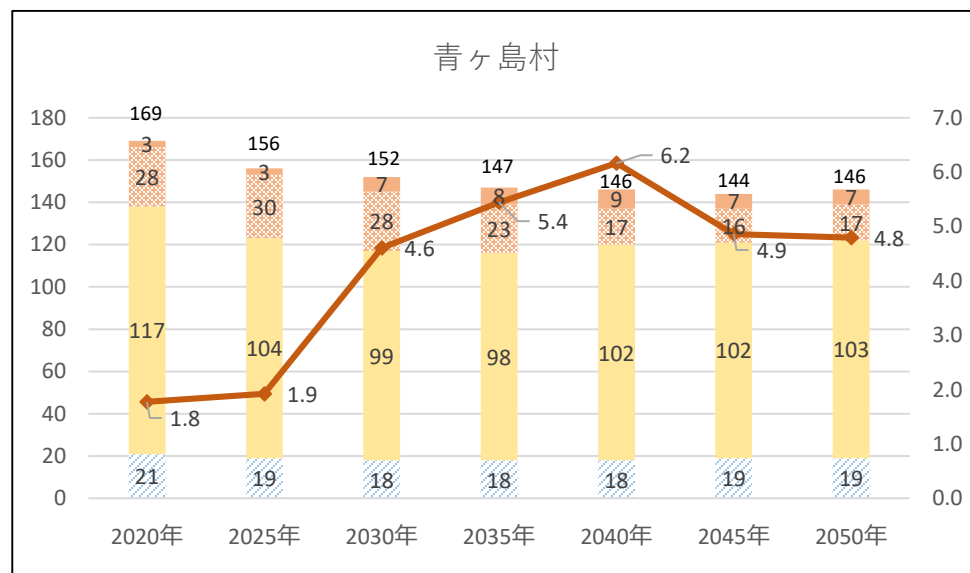
//// 年少人口 (0~14歳)    ■ 生産年齢人口 (15~64歳)    ■ 65~79歳人口    ■ 80歳以上人口    ◆ 80歳以上人口割合

## ⑧ 【参考】 2050年までの将来推計人口（全圏域分）



▨ 年少人口 (0~14歳)
 ■ 生産年齢人口 (15~64歳)
 ▨ 65~79歳人口
 ■ 80歳以上人口
 —●— 80歳以上人口割合

## ⑧ 【参考】 2050年までの将来推計人口（全圏域分）



▨ 年少人口 (0~14歳)   
 ■ 生産年齢人口 (15~64歳)   
 ▨ 65~79歳人口   
 ■ 80歳以上人口   
 —◆— 80歳以上人口割合